

中国四川省
大熊猫と出会う旅
成都～雅安 2010・2011

harebuta

上海から成都へ

2010年年末。

ここ数年恒例になっている中国大陸での年越しだが、上海に降り立った私はいつもとは違う気合が入っていた。

上海に滞在した後国内線の飛行機を使って四川省成都まで行き、成都市内と雅安の大熊貓基地でパンダに直面するのだ。香港台湾には呆れるほど行ったことがあるけれど、中国本土はまだ片手の数ほどしか訪問していないし、それも北京上海という都市化の進んだ地域限定のこと。国内線の飛行機や長距離の列車の旅は初めての経験となる。それでも行かねばならない理由が私たち夫婦にはあった。

北京や上海の動物園でも、もちろんパンダとは対面した。でも、薄汚れたガラスとコンクリートに囲まれた陽の差し込まない展示室で、パンダは息苦しそうに見えた。

もっと明るい場所で、動き回るパンダが見たい！！そしてなにより、パンダと直接ふれあいたい！！！！

そのアクティビティを提供しているのは中国広しといえど、四川省成都の繁育研究基地だけ。行くしかないのだ。

2011年には成田から成都まで全日空が直行便を運行したが、この時点では中国国内線を利用するしかない。

チケットは去年上海ー香港のチケットを手配してもらった代理店「旅悟空」さんに、あらかじめメールで予約をお願いしてあった。

「旅悟空」さんは、メールも日本語で大丈夫だし、チケットの受け取りなど対応してくれるのも日本人スタッフなので大変気が楽。今回は上海ー成都片道、サーチャージ諸々込みで7600元。正規運賃の約半額。

2009年には日本で買えば1人10万という年末年始の香港往復も1人3万円程度で手配してもらえたので、上海・香港二カ所の旅行を堪能できた。私たちは事務所の近所にあるブティック「上海灘」に寄りたい、という用事があるので店舗受け取りをお願いしているけど、ホテルや日本へチケットの配送もしてくれるそうなので、日本の代理店に払う手数料を考えたら、今後も是非お世話になりたい代理店さんだ。

チケット代は現金で支払えばそのままの金額、中国のunionpayのクレジットカードだと手数料が1%上乗せ、visaやjcb、アメックスなどのクレジットカードだと手数料は3%上乗せとなる。（他の代理店ではどうなのかは不明）とにかく、無事チケットを手に入れることが出来た。

翌朝、屋台街で朝ご飯を終えてホテルをチェックアウト。人民広場から地下鉄→リニアモーターカーに乗り換えて8時10分には浦東国際空港に到着。

エアチャイナ、中国国際航空公司でチェックイン。手荷物チェックのカウンターで、両親と別れておばあちゃんと地方に帰るらしい幼児、という4人連れを目にする。

動物園でも、親子連れより祖父母と孫連れを多く見かけたけど、経済発展の陰に家族が一緒に暮らせない現実があるんだなあ、と試してみたり。

ゲートは何の因果か一番遠い場所で、延々歩く。途中ネットfreeのPCを見つけて、メールチェックをする。入力日本語対応でないので返信がローマ字、という大変読みにくいメールを送りつけた友人の皆様、その節は失礼致しました。

成都行きの飛行機は座席は3-3の小さい機体ながら、ぎっしり満席。しかも人民の皆さんは荷物が多いので、トランクもパンパン。そのせいなのか別の理由があるのか、滑走路に出てからも中々離陸せずに30分近く遅れて出発。

途中しっかり機内食が出たけど、ヨーグルトだけいただいてひたすら眠る。



結構な乱気流に巻き込まれたらしいけど、大して揺れも感じずに12時40分成都着。気温は上海と余り変わらない感じ。

今回、成都から上海へは36時間かけて列車で帰る計画をたてていた。その列車のチケットを日本で予約しようとする、旅行会社に1万円の手数料を払わなければならない。旧正月時期ならともかく、飛行機で2時間半で行ける距離（しかも運賃は格安航空券と列車とではそう変わらない）、現地で買えるでしょ？と、考えていた。

ところが、旧正月期間外の列車チケットは乗車日の4日前からでないと買えないことが上海駅の案内で判明したので、上海で目当てのチケットを買うことが出来なかったのである。しかし、成都の空港内には鉄道省が運営するチケット販売所があり、無事上海行き軟臥チケットも購入できて肩の荷が下りた。

成都双流空港から市内までは303番の空港バスが頻回に出ている。売り場で1人10元のチケットを買って乗り込む。バスは中国方式で、満席にならないと発車しないが、すぐに席は埋まるのでそう待たされることもなかった。空港で我々をおどけたパンダの像が迎えてくれる。



市内は地下鉄工事であちこち掘り返されているうえに、やたらと自動車販売店が目立つ。空気の悪さも上海並だ。中国旅行ではマスクとイソジンは必需品。太陽もぼんやりかすんで見える。

空港バスは市内の高級ホテル街が終点。市の中心部には大きな川が流れ、その川を挟むように高層のビジネスビルや高級ホテルが建ち並ぶ。今回のホテル濱江飯店は、その高級ホテルに挟まれるように川沿に建っていた。

最初の予定では成都４泊、雅安１泊、車中２泊、上海１泊、だったのだが、上海に戻ってから野生動物園に行ったりするし、雅安は狭い街みたいだし、と成都５泊、車中２泊、上海２泊に変更したいと考えていた。

濱江飯店にチェックインをする時に、１泊延泊したい旨を伝えと、予約時の金額で問題なく延泊手続きをしてくれた。帰りの足も、宿も確保できて更に一安心。

ホテルは上海の定宿東亜飯店をほうふつとさせる古さで、冷蔵庫もないけれど窓が二重窓なのでそこで水や果物を冷やせるし、バスタブも付いているし、予想よりはずっとマシ。

同じ敷地内にソフィテルアンバサダーホテルが建っていて、成都滞在中はそのロビーでインターネットが出来た。

荷解きをして１５時少し前にタクシーで「武侯祠」へ。

私は全く興味が無く何の下調べもしていなかったのだけど、夫は恩師から何度もこの「武侯祠」が素晴らしかったと聞いていたようで、成都では外せないスポットのよう。入場料６０元。

行って納得、諸葛亮孔明を祀るお堂と、劉備の御陵、そして等身大三国志英傑のフィギュア展示（笑）

まあ、メインはそのような展示だが、何よりうっそうと茂る竹林、枯れてはいたけど夏にはきつと美しい蓮池、桃園の誓いをイメージした石像など、門外の喧騒が嘘のような静かな空間は、ここが中国とは思えない静謐な雰囲気だった。



そんな雰囲気とを和ませるように、橋の欄干や池の周りの石出できた柵の上に、ちんまりとユーモラスな動物の石像が何種類も鎮座していた。

我が家の旅行は基本的に夫と私の二人連れなのだが、必ず同行するする相棒がいる。犬のぬいぐるみ、名前はがうちん。モンチッチや熊のマフィーが着ている服がぴったり着られる稀有なサイズのぬいぐるみ。もう10年以上旅を共にしている。今まで訪れたことがある国はイギリス・ドイツ・スウェーデン・ロシア・中国・香港・台湾・韓国・・・随分くたびれてきたので開腹手術をしてお腹にペレットを入れたりして補強してきた。

今回も香港の男人街で購入したチャイナ服を着て、同行している。夫がそのがうちんを石像の上に載せて写真を撮っているのを少し離れた場所から眺めていた時のことである。

夫に熱い視線を送る一人の青年。ああ、また変な日本人が居るーとか思われているんだろうなあ。

ぬいぐるみ写真を撮っていると大抵物珍しげに見られるんだよね、とふとその青年の手許を見ると・・・人民服を着たモンチッチ！！！！

・・・・・・同志だ！（爆笑）

夫を呼ぶとその青年はおずおずと一緒に写真を撮らせて欲しい、と。ええ、夫とではなくがうちんと（爆笑）

石像の横にモンチッチとがうちんをならべて、嬉しそうに写真を撮っていました。

すごくシャイな青年だったので話などは余りしなかったけど、もしかしたら台湾か香港の人だったのかもなあ。

中国に売ってるのかな？人民服のモンチッチ。

武侯祠には「錦里」という屋台街が隣接している。食べ物だけでなく、お土産物やスタバ、三国志のコスプレができる茶店、民芸小物店などが軒を連ねる。例えるなら 浅草の仲見世みたいな雰囲気。上海なら 豫園商城。



成都是別名パンダの都でもあるのでパンダグッズを取り扱う店もちらほら。

夫は「熊貓爪」と刺繍された白黒フェイクファーの爪付きハンドマフにご執心。...後、数日で41歳になるというのに...

「多少錢？」「40」

それは観光地価格だよ、繁育研究基地にも売ってるよ〜、と諦めさせ、小腹が空いたので、竹筒入りのおこわと具たくさんちまき、餃子などを簡易テーブルで食べる。

「熊貓屋」というパンダグッズ専門店で、洗練されたデザインの茶器や布バックに心惹かれつつ、でも、日本に帰れば同じものが楽天で買えるし！！（チェック済み）荷物増やしてどうする！！と、楽天では取り扱いのないトランプや絵葉書などの紙ものを買って心慰める（後日、楽天でしっかり茶器は買いましたよ...価格は倍だったけど送料と考えれば安いもの）。

中華切り絵（剪纸）の屋台でパンダモチーフの作品（20元）も買い、門外へ。

歩いてすぐの所にチベット街があるというので見物に行くと、独特の民族衣装を着た人々がチベット仏教の仏具店や衣装店の前にたむろしている。難しい政治的なことはよく分からないのでコメントは避けますが、彼らは何故ここに集っているんだろうなあ、かなり異色な街の光景。物乞いも多かった。

8番のバスでホテルに戻る。今回のホテルはバス移動に大変便利な立地で、2元の料金ですぐぶんあちこちに移動が出来て助かった。

この近くで買い物の出来るところはある？、とホテルのフロントの小姐に聞くと、徒歩圏内にカルフルがあるという。小さいよろず屋的な店なら、ホテルの目の前にもあるがせっかくだから行ってみましょうか、と錦江賓館、岷山飯店、巨大一流ホテルと高級ブランドショップ、キラキラのイルミネーションを抜けて歩いていくと、赤と青の見慣れた看板が。

映画館や味千ラーメンなどの入った複合ショッピングモールにカルフルが入っているらしい。

だだっ広いフロアはどこのカルフルも一緒。旧正月に向けての飾りやお年玉袋の販売も始まっている。北京のカルフルでは可愛い中国結モチーフの綿入れジャケットを買ったけど、このチャイナ服は今いち響かない。

飲料水の大きいボトル2本と、ホテルで煎れて飲むお茶っぱと、ミニマンゴー、みかん、あ、喜羊羊（中国で大人気のアニメキャラクター）の蓋付きプラマグカップが可愛い！！これも購入〜。

帰りは裏道を行ってみようか、と街灯すらぼつぼつとしかない道を多分こっちでしょ、と歩いていく。

街灯はなくても、コンビニや食堂の明かりがあるので足元さえ気をつけていれば別段危険も感

じない。

夕飯どうしようねえ、と話していると仮店舗のようなドアもない店内に手書きのメニュー、椅子とテーブルだけの簡素な店が現れた。メニューには金額も書いてあるし、ここにしてみよう、と入り口に近いテーブルに着く。



ごくごくふつーの20歳になるやならずくらいのお兄ちゃんが2人、メニューとお茶を持ってきてくれる。揚州炒飯、土豆（ジャガイモ）細切り炒め、白菜炒め、と注文すると、なにやら「飯、アール云々」と言っている。あー、多分ご飯ものは1人1品頼んで欲しいって事かな？回鍋肉炒飯を追加すると、うなずいてくれた。

さて、この店は厨房すらないようだけど、どこで調理するんだろう？と思っているとお兄ちゃんはおもむろに携帯電話を取り出した。どうやら厨房は別の場所にあるらしい。椅子もテーブルもこぎれいだし、テーブルの上の箸も角がしっかり残っていて真新しい。何のお店なんだろうねえ？ときよろきよろしていると壁に「成都市職業訓練～」と書かれたポスターが。

ここは、職業訓練の実地研修の店って事なの？

程なくして、どこからか料理が湯気を立ててやってきた。じゃがいも炒めしゃきしゃき、程よい塩加減で好吃！白菜炒めは何てことない塩味だけど、しっかり唐辛子と花椒が利いている。炒飯は思った通り1皿で十分な量だったけれど、お兄ちゃん達の自立支援だしな！と頑張っておく。全て7元均一で28元也。安い！！



明日からの行程を考えて今日はきちんと寝なければ、と眠剤を服用して就寝。おかげで5時からいまで爆睡できた。

成都 2 日目 成都動物園と広漢・三星堆博物館

5 時にいったん目が醒めたけど、8 時まで二度寝。暖房をめいっぱいつけたのに洗濯物はまだ生乾きだった。上海のホテルの暖房が効きすぎという話も...

ホテルは朝食付きなので、別棟のレストランに用意された朝食会場に行ってみる。

お粥 3 種、野菜炒め 4 種、包子や花巻、漬け物、スープなど。動物性タンパク質は皆無だったけど、そこそこ食べられるメニューだった。味付けはどれも濃いめで、お粥に合う。牛乳が何故か粉ミルクの味だったのはご愛敬。

錦江賓館前のバス停から成都動物園行きのバスが出ているので、早々と出かけることにした。

市内中心部は道路も混んでいて、40 分ほどで動物園着。入場料 16 元。朝早い（と言っても 9 時くらい）せいか、人影はスタッフのみ。

スモッグのせいか今日も太陽はぼんやりかすんでいる。

園内案内図を見るとここは大熊貓展示室が入り口に一番近い場所にあるらしい。

ずーっと寝ているのと、よぼよぼのと、ガラスに寄りかかって竹を食べているのと 3 頭がそれぞれ展示室にいた。

竹を食べる勢いが早すぎて、光量も足りないせいか写真がぶれまくる...



展示室に餌の竹を運び込む入り口が開きっぱなしですが??入ってよろしいのかしら??（よくありません）

国宝展示なのに、ガラスや室内が汚いのはもう慣れっこだったけど、ここはそのガラスに小さいけれど穴が開いていた。大丈夫なのだろうか??

冬の中国ではもっともここに着ぶくれた子ども達を見るのも楽しみ。ガラスに顔をくっつけて「たーしゅんまお～」と叫んでいる男の子も、転がしても痛くないんじゃないかと言うくらい上から下まで着込んでいる。



10時を過ぎる頃から園内にお客が増え始めた。パンダと肩を並べる中国貴重動物の「金糸猴 きんしこう」は西遊記の孫悟空のモデルになったと言われるお猿。今まで遠目でしか見たことがなかったけど、この動物園では猿山がガラスに覆われていて、人慣れした猿たちが、まるで人間を見物するかのようにガラスに近寄ってくる。確かに人間臭い、猿離れした顔つきかも。人を振り回して楽しむかのように、猿が動くと人も動く。気まぐれに猿山に戻り、人山が消えたを見るとまた猿山から豪快にジャンプしてガラスにくっついて見せたりする。この猿山からガラスへのジャンプ、これが出来るのが一人前の証拠なのかなあ？小猿にはまだまだ難しそう。勢いが付けば激突しかねない危険な遊びのようだ。



動物園にやってくる親が考えるのはどこも一緒に、猿がガラスにくっつくと、そこに子どもを立たせて一緒に写真を撮りたがる。が、子どもが立てるほどのスペースはなく、片手にカメラ、片手で子どもを押さえるのは難しくて何度も失敗している親子連れがいた。猿がこちらを向いたシャッターチャンス！おせっかいかな、と思いつつ。子どもを抱えてあげると、母親は急いでシャッターを切った。

その時、子どもの両鼻穴から盛大に水っぱなが（笑）いまどきこんな水っぱな、見られないよ〜と、爆笑してしまう。つられて母親も大笑い。「謝々、あーいー」とお礼を言われ、楽しい気分になっていた。



成都是人が多く集まる場に必ず座ってお茶を楽しむ空間「茶座」があるらしい。昨日の「武侯祠」の中庭にも、池のほとりにも「茶座」があった。竹製の椅子と小さなテーブル。お茶を飲む道具はガラス製の茶こし付き容器だったり蓋碗だったり。動物園内にも「茶座」の案内が。池のほとりに竹製の椅子とテーブルが並んでいるが、さすがに寒いのかお客の姿は見えない。

その代わり、売店のまわりの休憩スペースでは湯気を立ててカップ麺をすする家族連れやカップルの姿が...お弁当、というか冷えたご飯のお弁当を食べる習慣がない中国。だから街中に屋台や食堂がたくさんあって、いつでも温かいご飯が食べられるのだけれど、そうか〜家族の行楽もカップ麺か〜

カップ麺以前は何を食べていたのかなあ？今まで中国内の動物園を何度か訪れて、売店にカップ麺が売られているのは目撃してきたけど、こんなに大勢の人たちが食べているのを見たのは初めてだったので、軽くショック。あー、はじめて動物園でデートした時、朝早くからお弁当作っていったっけ...あれは冬の冷たい雨が降る日だったなあ（遠い目）

その後もふれあい動物園のやぎや、バードドーム、カバの餌やり（りんご、にんじん、白菜、固形餌で10元）、鹿の餌やり（その辺の草っぱい、1元）で、ずいぶん楽しませてもらった。展示設備は綺麗とは言い難いけれど、新しくしようとか工夫しようという心意気が見られる動物園だった。

12時40分頃、門を出ると朝にはいなかった食べ物屋台が数軒並んでいた。確かにお腹も減っている。カップ麺は食べたいと思わなかったけど。

串に刺した一口大のジャガイモ、太い蠟腸（中華風腸詰め）、春巻きを頼むと、その場でもう一度揚げて熱々にしてくれる。ジャガイモと腸詰めには唐辛子とスパイスの混ざった香辛料をまぶしていいか？と聞いてくれる。もちろんたっぷりまぶしてもらった。



この揚げ物が成都での旨い物ナンバーワン！！だと思う。春巻きは中に山椒風味の細切りジャガイモが入っていてほくほく。腸詰めのジューシーな肉、かつかりかりな皮、ジャガイモは言わずもがな。なんでもっと食べておかなかったかなあ～（激しく後悔）まあ、そのあとバスに乗るので、お腹いっぱいにするのが不安だったわけですが、それでも食べるべきだった…。

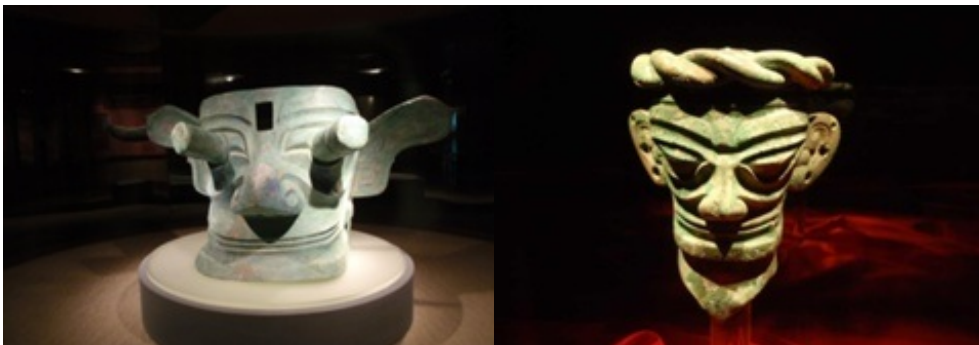
ほこりっぽい道を歩いて「昭覚寺バスターミナル」へ。成都市内はこの他にも、いくつか中距離・長距離バスターミナルがある。今日目指すのは「広漢」。夫の話によれば「三星堆博物館」で出土品を見たいとの事。三星堆遺跡といえば青銅の巨人や異形の青銅仮面がほぼ完全な形で出土されたところだよなあ。青銅の巨人はその異様なシルエットに何故か惹かれて上野の国立博物館で絵はがきを買った事があったっけ。

広漢までのバスチケットは15元、出発時間が迫っていたので中型マイクロバスに乗り込む。すぐに発車したバスは高速に乗り40分ほどで広漢市内のバスターミナルに着いた。

そこから6番の公共バスに乗り30分ほど市内を走って、中心部を離れた川沿いまでやってきた。左手に博物館の看板。ここまでやって来た乗客は我々二人だけだった。帰りの足が心配ではあるけれど、まあ何とかかなるでしょう。

入場料は本来80元のところ館内工事中で見られない展示もあるとかで、65元に値引きされていた。博物館なのに、ここもまた敷地が広い広い。展示館はそこまで広くはないけれど、いくつにも分かれていて、しかも離れている。

最初の展示は発掘までの歴史や、青銅器の作り方など、写真と説明文が多いのでさらっと流してお目当ての青銅仮面や青銅像の展示へ。ちなみに、観覧客は2桁いかないくらいだったので、ゆっくり見物できたし、写真も撮り放題だった。





青銅仮面も像も、本当に不思議なデザインで見飽きない。こんなオリジナリティあるデザインを造りだした人たちの子孫が、なぜデザインをパクったりするのかなあ。所々日本の芸能人に似ていたりして（三国志等身大フィギュアもそうだったけど）、クスリとさせられてしまうデザインも多く、時間をかけて見て回った。そして最後にいよいよお待ちかね、青銅の巨人様とご対面！！



大きいわ〜、こんな大きな像がそのままの形で発掘された時、どんなにか興奮しただろうなあ。

ぐるぐる展示ケースの周りを回って、あほの子みたいに口を開けて眺めてしまう。あほついでに、屋外に展示してあった巨人様のレプリカ、1メートル以上の高さがある台座の上に立っていたんだけど、その台座によじ登ってしがみついて写真撮ってきました...お客が誰もいなかったのでね...（恥）

じっくり見たつもりでいたけれど、正味一時間ほどで博物館を後にする。白タクの誘いを断りつつしばらく待つと公共バスがやってきた。帰りは鉄道で帰ってみようかと、バスの車掌さんに「駅の近くで降りたいの」と書いたメモを見せて途中下車。方角としてはあっているはずだけど、中々駅にたどり着かない。

ほこりっぽい道を延々歩き、ようやく「広漢駅」にたどり着くも、列車は1日に4往復くらいで、しかもさっき出たばかり。次は20時過ぎだというのでおとなしくバスで帰る事にする。

その前に、腹ごしらえと足の確保。駅に来る途中に輪タクの運転手さんがご飯を食べている路上食堂があった。そこでご飯食べて、ついでにバスターミナルまでいくらか聞いて、乗っていかう、ということに。

メニューがないので、野菜の中から茄子を指さし「炒！ちゃお！」と、注文。塩漬け？して干

したらしい三枚肉も「4両！すーりゃん！」と注文し、ごはん2杯といっしょで22元也。
ボリュームたっぷりのピリ辛茄子炒めはもちろん、塩肉のぶった切りも脂がとろけて下手な生ハムより美味しかった...

食事を終えて一服している輪タクの運ちゃんに「バスターミナルまで多少錢？」と聞くと「8元」とのこと。歩いていくにはとんでもない距離だし、中国旅行に来ると必ず輪タクに乗らねば気の済まない夫の為にも乗せてもらう事にする。

結構な距離をガンガン自転車をこいで進んでいく。100kgオーバーの夫と、私二人分の体重をですね、自転車で運ぶのは大変だと思うのですよ、それを8元って、申し訳ない気分がいっぱいになるけれども、外国人にはふっかけられる、と思ってもらっても困るしなあ、と最初の約束通り8元払う。運ちゃんも全く追加料金をふっかけようという事もなく、今までで一番安心して気分良く乗れた輪タクだった。

成都行きのバスは、なぜか行きより2元安い13元。しかも座席に着くとミネラルウォーターのサービス付き。なんでだろうねえ？と、思いつつうとうとして、ふと目を覚ますと既に発車して1時間は経っているというのに、まだ成都に着いていない様子。どうやら高速ではなく下道を走っていて、しょっちゅう渋滞に巻き込まれては止まっているらしい。結局一時間半ほどかかって昭覚寺バスターミナルに到着。そこから更にバスに乗り換えて、中山北路あたりまで戻り、ホテルに着く頃には19時を回っていた。昼食がボリュームたっぷりで、かつ16時近くに摂ったのでお腹も空かず、昨日カルフルで買った果物など食べて、洗濯して、休む事にした。

気をつけてマスクして嗽していたのに、咳が止まらない...風邪薬一式と眠剤飲んでおやすみなさい...

鼻が詰まって苦しくて起きる、という最悪の目覚め。しかもまだ4時半

咳も止まらず、鼻水は明らかに「風邪確定」の色になっている。微熱もあるようなので、乾燥対策と発汗を期待して風呂に入り、みかん食べて、水分摂って首にタオル巻いて抗生物質諸々飲んで、今日は休養日とすることにした。夫も疲れているようで、ホテルの朝ご飯食べた後いびきをかいて爆睡している。外は快晴なのになあ...

12時近くまで入眠して、具合が良いとは言えないけれど朝ほどこくはないし、お腹も空いたところで近場をうろうろしようか、とバス停に向かう。市内中心部にある「文殊院」周辺は賑やからしく、バスで行ける。成都に行くなら絶対食べるべし、と言われている麻婆豆腐発祥の店「陳麻婆豆腐店」の支店も有るらしい。

バスを降りて、石の門をくぐり、平屋建ての商店や食堂が並ぶ通りを2分も歩かずに「陳」の文字が書かれた旗を軒先に掲げる店が見つかった。狭い間口を入ると店内は中庭もあって回廊風の作りになっていて外から見るとよりずいぶん広い。



メニューを指さし、麻婆豆腐、娃娃菜のスープ、担々麺、ご飯、を注文。レシートと交換に席で先に支払いをして待つことしばし。スープは洗面器？というサイズで出てきたけど、その他は中国にしては控え目なサイズ。おかげでご飯も麺も味わう事ができた。

麻婆豆腐は、辛いというよりやはり「麻」花椒のぴりぴりがおいしい。日本の「陳建一麻婆豆腐店」は再現性高いんだなあ、と変な感心をしてしまう。

夫は娃娃菜のスープにいたく感動。小ぶりの白菜みたいな菜っぱ（日本では「わわ菜」という名前で売っている）を縦割りに切って、とろみをつけた上湯で軽く火を通して、仕上げにくこの実を散らしたスープがおいしいおいしい、これ日本に帰ったら作って!!と上機嫌。スープを張った器に野菜を入れて、その後蒸しているのかなあ？帰ってからナベにスープを入れて、菜っ葉を入れて火を通すという作り方では、この時のようなしゃきしゃき感が残せず、菜っ葉がくたーとしてしまう。娃娃菜も美味しいけれど、上湯の深い味も忘れがたい、確かに感動の一品だった。

私の胃袋を驚掴みにしたのは担々麺。いわゆるスープ無し担々麺で、あまりコシのない細めのうどんみたいな麺の下に、カリッカリに炒めた挽き肉と各種スパイス香味野菜、調味料そしてゴマとラー油。

これがもうなんていうか、いますぐ食べたい～

風邪も吹き飛ばすほどの美味さ。辛くてしびれて、味と食感とで飽きさせない。全体のバランスとか具と麺の量とか全てがパーフェクト！他の店の担々麺も食べてくるべきだったな～、と今は後悔していますが、この店の担々麺は食べなきゃダメだよな！と納得。

鼎泰豊の小籠包、陸羽の蝦餃、鏞記のピータン、許留山のマンゴープリン（いい加減にしろ、この食いしん坊め）に匹敵する「これを食べなきゃ帰れない」と言えばお分かりいただけるだろうか（一部にしかわからん、一部にしか）
お腹いっぱいになって店を出ると、ようやく周辺を見回すゆとりも出てきた。

こちらは錦里とは違って昔ながらの門前町らしい。店構えは新しくないが土産物や布靴、アンティーク風瀬戸物を扱う店、パンダグッズや絵はがきの店、駄菓子屋などが一坪ショップのように並び、その店先に焼き芋やウズラ卵の串焼き、薬草ドリンク？などの屋台が店を開いている。

木の下に椅子を出してくつろぐ人、店番したり店先でおしゃべりに興じる女性はほとんど欠けることなく編み物をしており、お喋りをしながらもその手を休める事がなかった。細い針金のような棒針を四本駆使して、ものすごく細かい機械編みと見間違えるような編み目で編んでいるのは靴下だったりセーターだったり。行き交うお年寄りの頭にはこれももれなく毛糸の帽子。これが編み方の見当がつかない凝ったデザインで、まるで皇帝の冠のような深いひだがたくさんよっている。

去年上海からバスで行った水郷の朱家角の街角でも、おばあちゃんもお姉ちゃんも編み物してたっけ。中国の女性は本当に働き者だなあ、と感心する。

せっくなので文殊院もお詣りをしていこう。文革以前から現存する成都市内唯一の仏教施設とのこと。拝観料は5元。中華風の作りが珍しい、という位でいたって特筆するお寺ではなかった（具合が悪くてあまりちゃんと見ていなかったのか、印象が残っていないので...）のだけれど、広々とした茶座にぎっしり老若男女がくつろいでいたのにはびっくりした。



子どもからお年寄りまで、家族総出？と思うような団体もちらほら。竹製の椅子に腰掛け、手に手にお茶の入った様々な容器を持ち、女性はやはり編み物にせいを出している。

ちなみに天気は快晴だけど気温はけっこう低い。みんなモコモコに着込んでお茶の湯気で鼻の

頭を赤くしている。この、茶座文化の背景はなんなんだろう？

香港でも「出街」という文化がある。家にこもっているより街の喧騒に身を置く方が賑やかで楽しいよね、という街ぶら文化という解釈であっているかな？その一端として家族で日曜日の朝飲茶をゆっくり楽しむとか、公園にお年寄りが集う文化があったけれど、その背景には「劣悪な住宅環境」がかつてはあったという。

想像でしかないけれど、家にいるとどうしたって明かりをつけたりテレビをつけたり「電気代」がかさむ。日本の住宅のように採光に気を配った住宅環境ではないだろうし（窓が大きい＝泥棒が入りやすい、だし）、冬なら暖房費もかかるだろうし。それよりあったかい格好で外にいた方が、知り合いにも会えるし楽しいし、と良いことづくめなのかも。そして茶座を利用する市民のためにやっぱり入場料を取らない出入り口があるらしい。その市民用扉から表に出て、地下鉄の駅まで歩く。

途中、トイレを借りに市民病院に立ち寄ったけど、病院なのにトイレに紙がない！という事に軽く衝撃を受ける。本屋を探して「天府広場」まで地下鉄で2駅。

天府広場の向かいには巨大な「毛沢東像」が立っている。ここもふきっさらしの冷たい風が吹いているのに、花壇やオブジェの縁石にはずらりと座って時間を過ごしている人々があふれている。



成都一大きいという天府書城は広場の毛沢東とは反対の道路一本向こうにあった。電灯がやけに薄暗い。トイレを借りた病院も薄暗かった。茶座と電気代の因果関係を裏付ける証拠にはならないかなあ。

店を出て、タクシーを拾い「伊藤洋華堂＝イトーヨーカドー」を目指す。実は今回成都に行く、と家族に告げた時にえらく心配された。理由の一つは、先の反日デモの標的となったこの日系百貨店の襲撃映像が中々ショッキングだったこともある。でも、意図的に繰り返し流された映像に騙されて、自身の目で何も見ずに済ませてしまうのはくやしい。実際訪れてみれば、拍子抜けするくらい何事もなかったように、店内は買い物客でごった返していた。



病院や本屋とは雲泥の差の明るい店内。各所に設置されたベンチには、ここは茶座ですか？と言うくらい手に手に容器を持った人々がくつろいでいた。ベンチの横には水とお湯が出る給水器がある。

地下食料品売り場の一角にあるスーパーマーケットで、ヨーグルトと氷砂糖、鼻水が止まらないのでティッシュも購入。棚に並ぶ商品は日本製と中国製、その他の海外製がさて、どんな割合か。ジャンルに寄って違うようだったけど、お菓子やお茶以外のコーヒーやココア、紅茶は日本と外国の物が多かったように思う。もちろん価格も海外並。



食料品売り場の総菜やパン等の対面販売コーナーは、本当に押しくらまんじゅうのような人混みだったので立ち寄らずに上階を目指す。

ワンフロアの面積は東村山のイトーヨーカドーの方が広いくらい（だから一部にしか分からないと...）、なぜか無印良品が入っていたり、違和感を感じるけれどまるで日本で買い物しているような錯覚を覚えるほど、店内は日本風だった。成都ー上海の列車内で履く突っかけサンダルをカルフルでも探していたが、靴売り場や日用品売り場は暖かいスリッパやブーツが主流で、サンダルは見あたらない。ここでも見つけることは出来なかった。

伊藤洋華堂の隣は伊勢丹、周囲はスポーツ用品店やファーストフード店、カラオケ店、ブティックなどが立ち並ぶ北京で言うと王府井のような繁華街。錦里にあったパンダショップの支店もあった。

ホテルまで距離はあるけれど歩いていけない距離でもないの、地図を見つつ歩いていくことにする。途中の茶葉屋さんで竹芽茶（緑茶）4両と鉄観音2両買う。集合住宅に隣接した荒物屋

でっかけサンダルも10円でゲット。食材市場では野菜や肉魚の店に混じって製麺所やワンタン、餃子をその場で包んで量り売りする店や、香辛料の量り売りの店もあり、食文化の豊かさの背景を見せつけられた気がした。



ふらふらと歩くうちに、職業訓練の食堂がある通りに出た。店は開いているようなので夕飯を食べていこうとしたが、今日は20:15からなんだ、と言われて諦め、道路を挟んだ反対側の四川料理店に入ることにした。

大きな円卓が4つ、4人がけのテーブルがいくつかある店内は、結構埋まっている。青椒皮蛋・紅腸豆腐・生菜蚝油・川味涼粉とご飯どんぶり一杯で41元也。

青椒皮蛋...これが何ともふしぎな料理だった。ピータンと言いながら、なんだかケミカルな素材で作られてないか？これ。無色透明のゼリーみたいな白身にゆがんだ黄身、味もピータンとは似てもにつかない物と千切りピーマンやネギが和えてある...久々に生野菜が食べられたから良しとしよう。

(追記：後日このピータンは「四川ピータン」で、このスタイルで正解だと知る。でもリピートはしないかなあ)

紅腸豆腐は、スパムと絹ごし豆腐のあんかけ(笑)たしかに紅いわ。生菜蚝油は青菜の炒め物、川味涼粉は...写真を探したけど、みつからなくて、記憶も今いち曖昧... ご飯はもちろん食べきれなくて、おかずもお腹いっぱい食べてホテルに戻る。

くしゃみと鼻水はつく...

今日は大晦日。

今年のパンダ納めはパンダマニアの聖地「成都大熊猫繁育研究基地」だなんて、なんという幸福なんだろう。

体調は万全、とは言えないけれど昨日よりずっと良い。天気予報は雨、となっているけれどまだ振り出す様子は見えない。

6時半、まだ真っ暗な中を、川向こうの成都旅遊バスセンターを目指して、懐中電灯で足元を照らしながら出かけることにした。

人影もなく真っ暗なバスターミナルの案内表示を見ると、繁育研究基地直通のバスは8時が発売とのこと。そんな時間まで待てない！パンダは朝が一番活発な時間。とって返していつもの錦江賓館前バス停まで歩き、99番バスで成都動物園まで行って、そこからタクシーを拾うことにした。

市中心部に行くまで道は激混み。しかし駅を過ぎる頃から市外方面への道は空き始めた。うっすら空も白み始めてきた。動物園から繁育研究基地まで19元。基地の目の前の道は「熊猫大道」！

到着したのが8時くらい。日も昇ったようだが雲が厚くてまだ夕方くらいのあかるさ。入場料は58元也。さて、これまた広い園内、どうやって見ていこうか？

入り口から少し歩いたところに仔パンダと母パンダの黄金の像。ああ、この像の前で記念写真を撮ることが長年の夢でした...



とりあえず一番奥にある青年パンダの展示場を目指すことにした。

園内はあちこちに竹林がうっそうと茂っている。早朝なので観覧客の姿も見えず、鳥の鳴く声くらいしか聞こえない。

途中、パンダケーキ（穀物等の材料を混ぜて蒸して作ったパンダの大好物。別名パンダ団子）を作る工房を見学し、丸めただけの形ではなくて一個一個月餅みたいな型に詰めて成型するのは芸が細かいなあ、と感心。



坂を登って汗を一かきしたところに、ようやく展示場にたどり着いた。

朝ご飯の時間なのか、どのパンダももりもりと竹を食べている。竹を観覧客に近い位置に置いてくれているので至近距離でお食事のパンダを見ることができる。竹をつかむ、葉っぱをちぎる、葉っぱを食む、ガサガサ、シャムシャム、モチャモチャという音と鳥の声、パンダの鼻息だけが響く。

きちんとおすわりして食べてる子、寝っ転がって食べる子、隣の子の食べてる竹にちょっかい出す子、三頭並んだ姿を見ていると自然に顔がにやけてしまう。欧米系の男性とアジア系の女の子も、並んでパンダに見とれる。こんなに朝早くから来るなんて、あんた達も相当好きだね？（笑）

一番高い所まで昇ったから、後はゆっくり下るだけ。青年パンダの単体展示場は高台から見渡すとコンクリートの無味乾燥な建物群に見えたけど、パンダが存在するだけで心和む空間に転じてしまう。まあ、居住者であるパンダにしたら、住みにくい環境なのかもしれないのだが。神経質にうろうろするパンダを見て、ちょっと心配になってしまった。

広い敷地内をなるべく無駄の無いように歩こうと思うのだけど、中々難しい。結局我々は8時から14時まで歩いて歩いて。仔パンダ幼稚園にたどり着いたのは11時を過ぎた頃だった。

これが絶妙なタイミング！室内で体重計測をしてベビーベッドに密集する仔パンダ達！！乗っかったりよじ登ったり、飼育員の目を盗んで床に降りてみたり好き勝手にうごいて、ああ、もうどこを見ていたらいいの～

パンダは8～9月にかけて出産をするのが普通。この子達もそうだとすると3～4ヵ月というところか。白浜の双子達も8月生まれ。体重は6～7kgになっているはず。

よだれを垂らさんばかりに眺めていると、仔パンダ達は屋外運動場に移動する時間になったよう。

あわてて屋外展示場へ移動すると、水色の防護服を着た小姐達が次々仔パンダを抱えてやってくる。無造作に地面に置かれていく仔パンダ達。まだしっかりと四つんばいで歩くことが出来なくてうごうごとお尻を振っている。...かわいい...寒さも忘れて、動く仔パンダ達を追いかけて走り回っていたら、風邪もなんだか治ったような気が。あれか、好きな物に囲まれて免疫力が上がったのだろうか。

野に放たれた仔パンダはころころころころ動いているんだか転がっているんだか区別がつかない

いけれどとにかくとかわいい。

いもむしのようにうごうごしているかとおもえば、いっちょまえに座って竹で遊んだり目が離せない。

さて、この仔パンダ達と遊ぶにはどうしたらいいのかな??

成都が私にとっての聖地になったのは、ここにパンダとじかに戯れるというアクティビティを行っている数少ない施設があったから。確か最初にその紹介記事を読んだ時はパンダの隣に並んで一緒に写真を撮る、が成人パンダなら100円で、仔パンダなら300円とか、そんな価格だったように思う。それが、仔パンダ幼稚園が出来てからは、敷地内で5分間遊ぶ、になり、その価格も見るたびにつり上がって行き、最近見たサイトでは1000元(=約13000円)になっていた。日本円で考えれば、まあ贅沢だけど出せない金額ではない。けれど、現地の人にしてみたら、包子1000個分って、何日分の食費?とか、パンダより先に救うべき人民がいるんじゃない??とか、いろいろ考え始めればきりが無いけれど、それがパンダの成育や繁殖や、野生パンダの居住環境保全に使われるなら、喜んで払うさ!!!と意気込んでいた。

(もっと早く来れば良かったよな〜、と後悔もしていたが)

その聖地に、今私は降り立っているのである。さあ、私を仔パンダと戯れさせてくれ給え!!!

結論：個人旅行者は、仔パンダと戯れることはできなくなっていました。

ウオ————Σ(㍈° |||ノ)ノ————ン!?

正門まで戻って、ツーリストインフォメーションでも確かめたし、仔パンダ幼稚園のスタッフにも確かめた。インフォメーションの旅行者コメントにも中国語で「パンダが抱っこできなくて残念」というコメントが散見される。

(帰国してから調べたけれど、特定のツアー客には継続してそのアクティビティを提供している様子。だけど、そのツアーに参加した人のコメントには、時間が無くて、基地全部を見て回ることが出来なかった、とある。つまり、仔パンダと戯れるか、全体をゆっくり見学するか、どちらも、は出来ないと言うこと???)

な—ん—の—た—め—に—こ—こ—ま—で—き—た—の—
つ㍈`.)°・°・°°・*∴∴∴∴*°

(立ち直るまで しばらくお待ちください)

いや、仔パンダの成育の事を考えたら正しい選択だよね。おもちゃじゃないんだから。

えーと、つまり今後仔パンダと戯れるためには芸能人になって志村どうぶつ園に出るしかないのか(遠い目)

でも、ころころころころ転がる仔パンダ達を、こんなにたくさん至近距離で眺められるだけでも、幸せなことだよね。と、傷を舐めつつ仔パンダを眺める。朝食も昼食も忘れて14時過ぎ、名残惜しいが基地を後にした。

基地の正門の向かいにはパンダグッズを扱う土産物屋の集まりがあった。

夫が執心のハンドマフもやっぱりおいてある。

1軒目「35元」という。

2軒目30元出したら何も言わず受け取ったので、それが底値か?と思い。1個買う。

3軒目「多少錢?」と聞くと「20元」????定価はいくらなんだ!てか、定価なんて無いんだろうけど。片手分だけあっても仕方ない、とかさばるのを承知でもう一個購入、これで1個25元になったか(笑)ちなみに、同じ製品ではないようで微妙に仕様が違うんですが、それが値段の差?

とにかく中国での買い物は根気がいると言うことで。

30分近く待って激混みのバスに乗り、昭覚寺バスターミナル前で、旨うまの揚げ物をまた食べようと思っていたら、交通事故整理に警察が来ているせいか、屋台が皆無。仕方ないので簡易食堂で青菜炒め、刀削麺、麻辣豆腐、ご飯で36元の遅い昼食を摂った。

バスターミナルで行きながら運搬される鶏の写真撮ったりしつつ、1番バスでカルフル前まで戻り、今日の教訓(パンダ見物には食料持参。夢中になって食べるのを忘れるから)を元に、バナナ、チョコ、パンなどを買い込みホテルに戻った。

スッカリ冷えた身体をお風呂で温め、休憩して20時過ぎ、夕飯にでかけることにした。

中華圏のお正月は旧正月とはいえ、今日は大晦日。職業訓練の店はシャッターを閉めていたの
で昨夜の店にはいることにする。こちら、昨日とはうってかわって、私たち以外には年越し宴
会のお客が1組のみ。みんな、紅白歌合戦的な特番を見ながら、家族と食事をするんだらう
なあ。

野菜とスープを食べたい、と、黄ニラ炒め、冬瓜スープ、魚香茄子、そして成都に来てからず
っと気になっていた「兎肉」を注文することに。

黄ニラ炒めは絶妙な炒め加減でニラがしゃきしゃきとした歯ごたえを残している。冬瓜スープ
は薄味だけど、これまた火の通り加減がすばらしい。冬瓜の青臭さを残しつつ、スープがしみこ
んでいて歯ごたえもやわらかすぎず硬すぎず、じんわりと美味しい。魚香茄子は麻婆茄子よりも
甘さが勝っていて、ご飯が欲しくなる味。そして最後に出てきた兎肉炒め、セロリと赤黄ピーマ
ンと一緒に骨付き肉が「炒」、というより「爆」な感じで調理されている。

スパイスの香りだけでなく、強い火を入れた味。しかも相当「麻」が利いていて舌も唇もひり
ひりする。辛いーでもおいしいービール足りないーと、堪能して60元也。

夫は並びのマッサージ店へ、私はコンビニによってヨーグルトとポッキーを買い、ホテルに
戻る。

1時間ほどして戻ってきた夫、怪しいマッサージではなく、脚と背中をしっかりと揉んでもらっ
て70元だった、と上機嫌。今日の疲れも少しは緩和したようで何より。

咳と鼻水は治まってきたけど、まだくしゃみが残るなー、でも、明日もまた朝早いので早々に
就寝。

新年好！ 窓の外は小雨がぱらついているけど、とにかく年は明けた。

さあ、早速パンダ初めに行こうじゃないか。目指すは雅安。

四川大地震で壊滅的被害を受けた「臥龍大熊猫研究中心」で飼育されていたパンダ達は、成都とこの雅安の基地に避難している。臥龍の基地に行くにはまだ舗装もされていないような山道を延々4時間とかかかるらしい、と聞いていて行きたい、でも遠い、時間もかかるなあ...と思っていたら大地震。お陰で、と言ってしまっただけなのだが臥龍よりややアクセスしやすい雅安になら、成都から日帰りでも行けるという。でも出発は始バス（笑）

昨日に引き続き真っ暗な中を、雅安行きのバスが出ている石羊バスターミナルに向かう為にいつものバス停に行くが、バスターミナル方面は始発が遅い（6時半発）事が判明。ホテルに戻るのも面倒なので、バス停の前に建つ「錦江飯店」のゴージャスロビーで待たせてもらう。

まあ、こんな情報まで「地球の歩き方」に求めるのは最初から諦めているので、臨機応変に対処するしかないよね、と。こんな時に、何故昨日のうちに調べなかったんだ！とか、文句たれてケンカをしてもしょうがない。毎回旅行に行くとは一回は夫と大喧嘩をするのだが（ひどい時は、合流して二日目にケンカして、そのままホテルも別にして、チケット早い便に替えて一人で帰国した事もあった。あれは台湾じゃったのう。おかげで101の花火見損ねた...orz一人になってからは台北のホテルで切っぴつだったテキストの原稿書き三昧だったわ...何しに行ったんだか。）今回はパンダまみれでストレスゲージが低いせいか、ケンカにもならない。いい事である。

元旦だし、市街への反対方向のバスだしで道路は大変空いていて、ものすごいスピードを出すバスに揺られてターミナル着。途中、ひどい悪寒に襲われて、このまま引き返すか？という気分が一瞬あったけど、到着までに治まった。やれやれ。でも、お腹に何か入れるのはやめよう、とターミナルの売店（ちまきとか売ってた）を横目で見つつ、バスが着くのを待つ。片道47元也。

7時半発車の雅安行きバスは、マイクロよりちょっと豪華な観光バス。中国のバスに乗ってて面白いなあと、思うのは、乗り込む時や停車中は車内灯が点いているのに、発車すると車内が真っ暗になるところ。暗くなると眠くなる、で、うとうとするうちに高速に乗り、2時間かからずに9時10分雅安到着。

この西門ターミナルからは碧峰峡行きのバスは出ていない。雅安旅游車站まで、タクシーなり輪タクなりで行くしかないらしい。でも、そこから碧峰峡行きのバスが何時に出るのかも分からないし、もうタクシーで碧峰峡まで行けばいいよね？でも、その前に腹ごしらえ、とターミナル

の並びの食堂で包子ひと蒸籠と、辛いワンタン入りスープ、キビ入りのお粥で10元の朝食。

タクシーはメーターも付いてはいるが、ここは先に交渉しておこう、と手当たり次第に声をかけると60元とか80元とか言ってくる。出せない金額ではないけれど、何台か交渉する内に40元という良心的価格を提示してくれたおっちゃんに乗せてもらう事にした。さあ、碧峰峡基地へGO!だ。

成都に比べればあまりにも素朴で、高層の建物が無い町並みを抜けると、川沿のくねくね坂道をものすごい勢いでタクシーは走っていく。勢いがすごすぎて車窓の風景を楽しむ間がないけれど、だんだん山深くなっていくと、日本とは違ってうっそうとした竹林の山並みが連なっている。

さて、今回我々が参考にした「地球の歩き方 成都・九寨溝・麗江 雲南・四川・貴州の自然と民族 09-10年版」には、こう書いてある。

『 雅安パンダ研究センター 雅安旅遊ターミナルで「上里」行きのバスに乗り、「碧峰峡」で下車。その後徒歩約3km（上り約45分）で碧峰峡景区の駐車場に着く。そこでパンダ研究センター行きのバス（無料）に乗り換える（約4km） ※11:30～13:30の間に到着しても入場できないので注意 』

すみません。日本語能力の低さを露呈するようでお恥ずかしいのですが、何故か我々はこの文章を読んで碧峰峡までは交通手段があるけれど、そこから基地までは歩きなさい、と言う解釈をしました。

ちなみに地球の歩き方には、雅安市内の地図は載っていたけれど、碧峰峡の地図は一切載っていなかった。

なので、バス乗り場があるなんて気づきもしなかったわけですよ。

実際、タクシーの運ちゃんには「中国保護大熊猫研究中心雅安碧峰峡基地」と書いたメモを見せたけど、連れて行ってくれたのは基地の入り口ではなくパンダ研究センターや動物園のチケットを販売する建物の前だった。碧峰峡風景区は環境保護の為、一般車両の侵入が規制されているというのは本当らしい。

建物内のカウンターでチケットを購入。これも、「歩き方」には80元とあったけど118元に値上がりした模様。

この時、時刻は10時半近かった。入場制限のリミットまで後一時間しかない!!!!

ええ、焦ってました。ご飯食べないで来れば良かった、とかタクシー値切ってないでさっさと来れば良かったとか、でも、そんなことでケンカしてる時間もない!! 周囲を確認する余裕もなかったわけです。

いつの間にか雨は雪に変わっていて、粉雪ちらつく中を滑りやすい赤土の川沿いの道をひたす

ら歩き始める。バスを降りてすぐは寒さに震えるようだったけれど、すぐに汗がだらだら垂れるほど急ピッチで歩く。同じ道を歩く人民の皆さんは川や瀧、山の景色をバックに写真を撮りつつのんびり歩いているが、川も山も瀧も日本でも見られる！パンダはここにしかない！！と、脇目もふらず歩く歩く。途中、揚げ物やお菓子、飲み物を道ばたで売っていたりして、こんな所でも揚げ物かあ、と中国人の商魂に脱帽しつつ、時計とにらめっこ。

しかし、途中に「後〇〇km」とかの案内板があるでもなく、時間は刻々と迫ってくるし気は焦る。

それでもようやくバス停が見えてきた！あと少し！！慌てて足を滑らせないように、慌てず急いで正確に足を運ぶ。道路が見えた！

バス停らしき東屋のベンチにへたり込み、コートを脱ぐと体中から湯気が立ち上る。東屋の軒先で店を開いている老婆からペプシを買い（5元！山頂価格で高い）、のどを潤していると人なつっこい雑種犬が足元に来た。おおよしよしと愛でていると、ぼちぼち同じルートをたどった人たちがバス停にやって来た。

程なくしてバスが到着。あれ、なんでこのバス人が乗っているんだろう？

チケットを見せてそのまま乗車。結構な数の人が乗っていて、座席はない。しっかりとバーにつかまって山道をうねうねとバスは上りだした。

はやる気持ちを抑えつつ、バスは11時25分に基地入り口に到着した。

入り口周辺には食べ物屋台やおみやげ屋が軒を連ねているけれど、それは後回し。小雪がちらちらする中、いよいよ基地内に足を踏み入れる。

本当に山の中なので、空気がきれい。あたりは一面の竹林。今までずっとマスク着用していたけどここでは不要。眼鏡が曇らなくて大変助かる。まず最初に5頭の青年パンダがごろごろしている展示場へ。

実はここ、上野にやってきた比力と仙女の展示場でもあったようで（パンダ来日ニュースの映像を見て、あ、あの時のパンダだ、と気づいたという）はからずも、来日前に二頭のパンダと対面を果たしたことになるとは、この時には全く気づいていないorz

雪がちらちらしていても、青年パンダは元気にのしのし歩き回り、竹をばりばり食べ寝ころんでいる。展示場は土がむき出しだから全身泥まみれでお世辞にもきれいとは言えないけど、やっぱり愛嬌がある。一緒のバスで降りた人民達が次の展示場に向かった後も、しばらくそこで青年パンダを眺めていた。

次が仔パンダ幼稚園。以前ＴＶで元Winkの相田翔子や若いお笑いのハーフ女の子（名前くらい調べようよ...）、ＴＢＳの安住アナが体験飼育をしていたところである。

赤ちゃんパンダの展示はしてなくて、１歳になるやならずの仔パンダ達が木の下や木の上で思い思いのスタイルでくつろいでいる。

展示場は崖に面していて、崖沿いの石段を登っていくと、木の上の仔パンダが近くで見られそう。滑らないようにそっと上っていくと、木の上の仔パンダが「ぷうう」と鳴いた。あたりは物音一つしないので、離れていても良く声が聞こえる。

「ぷうう」と鳴き返してみると「ぷうう」と返事がある。

竹林と雪、パンダと私、この空間にはパンダと私二人きり。

...なんて幸せなんだろう...（←バカ）

しばらく「ぷうう」「ぷうう」と鳴き合っていたが、写真を撮り終えた夫が上ってきたので、名残惜しくも幼稚園を後にする。幼稚園の事務所らしき場所で「だっこして写真は撮れないのか？」と聞いてみたけれどここでも「没有」と言われてしょんぼり。

実はここに来るまで相当歩いている。パンダ幼稚園の上まで山道を上り山奥の展示場で壮年パンダを見学し、道なりに歩いていたらあら、入り口にもどっちゃった。園内巡回バスがあるはず、と入り口で聞いてみるがここでも「没有」。

しかたないのでとぼとぼと来た道を引き返す。

途中、パンダの名付け親や里親になった人たちの記念ネームプレートが飾ってある東屋で一休み。日本人だけでなく欧米の人の名前も結構多い。東屋のそばの広い展示場にも一頭の青年パンダ。これだけ広かったら運動不足にもならないよなあ。

更に進むと、スタッフの詰め所らしき建物が。ガラス越しに餌用のりんごやにんじんが積んであり、まな板の上にはパンダ団子が。成都繁殖基地では一個一個月餅型に作ってあったけどここは無造作に丸めているだけなのね...更に覗くとボランティア向けの指示ボードに、作業の手順が書いてある。飼育小屋の掃除の仕方とか。いいなあ、何日かここに住み込んでボランティアをするとパンダとふれあえるんだよなあ。

詰め所の奥のコンクリートの建物内にも壮年パンダ。しかしこの基地内の展示場はどこも薄汚れている。

更に奥に進むと、外資系の自動車会社が社員やボランティアと一緒に植えた竹の苗がずらっと並んだ愛心竹林が。小さな苗にハート型のメッセージプレートが飾られていた。車を売るには道

路を造らないといけない、その道路を造るために山や森が寸断されて野生のパンダが繁殖出来ない...と言う現実からしたらずいぶんお手軽な罪滅ぼしだなあ、おい。

そしてたどり着いたのが、今回の目玉「帰国大熊猫樂園」！！！！本当にパラダイスでした。海外の動物園で産まれたまだ年若いパンダ達が6頭展示されていたのだけど、これがまあ活発に動く動く！！

鳴き、歩き、崖を登り、竹を食べる。さっきの詰め所からにんじんとリンゴをなぜガメて来なかったんだと（←オイオイ）激しく後悔する。

まだちらちらと雪は降ったりやんだりしていたけれど、寒さも忘れてあっちの展示場、こっちの展示場と他の観客もいないので好き放題に見物しまくる。

途中、あまりの寒さに汗で濡れたシャツを脱いでフリースとヒートテックに着替えただけど着替える間も惜しい。

竹をばきばき食べ、ぶふーっと鼻息を腹パンダ達を眺めながら、持参したバナナとスニッカーズをかじる。二頭並んだ兄弟パンダは仲良しさんで、じゃれあったり離れたり背中をくっつけあって竹を食べたり。一方のつま先が白くて靴下はいているようなのがまた可愛い。

崖下の一頭は「くうーっ」と恋鳴きをしている。つぶらな瞳にノックアウト。飼育員もお客もいないし、この崖を降りれば...と不穏な欲望が脳裏をよぎる。

しばらくすると、13時半の開場時間を過ぎたのか、さっき「没有」と言われた巡回電動バスが大勢の人民を連れてやってきた。名残惜しいけどいい加減本気で寒くなってきたので、10元のチケットを買って電動バスで出口まで連れて行ってもらうことにする。オープンカーだから寒いんだけど、結構な距離を歩いたので楽なことこの上なし。

門を出て、記念写真を撮り駐車場までの巡回バスを待つことしばし。おみやげ屋さんは話にならないような高値をふっかけてくるし、品揃えは成都繁殖基地前とさして変わらなかったのも写真だけ撮っておしまい。

それでも、もこもこのパンダ帽子やマフラー、手袋などは売れているようだったからお土産兼防寒具やさんの役割なのかもしれない。園内ですれ違った人民の皆さんも楽しそうにパンダ帽子やマフラーを身につけていた。

バスでチケットを買った建物のある場所まで戻る。看板を確認すると、この場所から基地までの無料バスが出ているらしい。

私はてっきりタクシーで着いたのは「碧峰峡」で、そこから徒歩3kmで基地行きのバス停に着いたと思っていたのだがそうではなく、タクシーは碧峰峡景区の駐車場まで連れて来てくれた

のだった。それが分かっていたらここでパンダ研究センター行きのバス（無料）に乗ることが出来たのである。

じゃあ、あの汗だくになって歩いた意味はっっっ？？？全くとはほな気分とはこういうことか。

土産物屋でパンダ顔のマスクを買い、雅安旅遊バスターミナルに行くミニバス（普通のバン）に乗り込む。この手のバスは定員にならないと出発しないので、しばらく待つ。定員乗り込むと料金を支払うらしいのだけどいくらなのかがわからない。片言の英語を介す若い女性の助け船で一人分5元を支払い、やっぱりガンガン飛ばしてそんなに時間はかからずに雅安の街中に着いた。

旅遊バスターミナルから、朝バスを降りた西門ターミナルまで市内をぶらぶらしながら行くことにする。町の中心を流れる大きな川べりを歩き、その川にかかる橋そのものがアーケード付きの商店や茶館になっている雅州廊橋を目指す。途中ふかふか蒸したてのきび？とうもろこし？が材料の蒸しパン1個1円で小腹を満たす。

雅州廊橋は一階が商店、二階が茶館になっているらしい。商店はおみやげ屋だったり、洋品店だったり、お茶やさんだったり。雅安名物の蒙頂山で取れる蒙頂茶を買っていこう、と一軒の店に入り茶葉を見せてもらう。緑茶らしいきれいな葉なので二両ほど買う。

現在は工事中だが、川沿いにも茶館や軽食を楽しめる屋台街的なものがあって賑わうらしい。

工事中の店を横目に、川沿いを離れて町の中をぶらぶらする。廃墟となった遊園地を抜け、ぼろぼろの住宅が立ち並ぶ一帯を通り過ぎ、安宿の看板が目立つな～と思ったらバスターミナルは目の前だった。

16時35分発の成都行きバスに乗り、うとうとするうちに18時半過ぎに成都着。

雅安は「雨城区」と呼ばれるほど雨の多い場所だそうだけど、成都も小雨が降っていた。

76番のバスでホテル近くまで戻り、職業訓練の店でザーサイと細切り肉のチャーハン、薄切り肉のスープ、ジャガイモ炒め、キャベツ炒めで34元の夕食。すっかり顔なじみになったので、帰り際にタバコまで勧めてくれる（丁重にお断りしたけど）。彼らにとって日本人＝私たちになるのかなあ。いい印象だといいなあ。

今日が成都最後の夜。洗濯して就寝。

再見！成都 列車で上海へ

翌朝も雨。7時半にホテルの朝ご飯へ。湯麺と大根の炒め物が美味しい。

昨日の疲れで部屋に戻って10時過ぎまで二度寝。パッキングをして11時にチェックアウト。

地下鉄で成都火車站まで行き、5元払って荷物を預ける。中国はこの行李預りシステムがあるからとても助かる。もちろんがっちり鍵は掛けてあるし、貴重品は手元に持ってるけど。

再び地下鉄で文殊坊へ。陳麻婆豆腐店で初日に食べた麻婆豆腐や担々麺、わわ菜のスープに苦瓜炒めを追加して46.5元の昼食。

日曜日で、かつ正月二日のせいか人出が多い。雨も上がっていて物売りの数も増えている。蠟梅の花をいっぱいに積んだ荷車とか、靴の中敷き売りとか。

列車の時刻までずいぶん余裕があるので、成都観光名所の青羊宮へタクシーで向かうことにする。かなり距離があったけどそれでも19元程度。

青羊宮は、道教道観です。

道観とは、道教教団において、出家した道士が集住し、その教義を実践する施設である。道教寺院。道教宮観の略。宮観とも呼ばれる。。その由来は道教の始祖、老子が青い羊を連れてここを通ったという故事による。唐代に創建されたが明代に焼失し、現存する建物は清代のもので、三清殿前には清朝雍正時代に北京から運ばれた二つの銅羊があり、その中の一つは十二支の動物の特徴を持つ奇妙な造形をしている、道教文化の研究には重要な文物となり、病を治すとして多くの参拝者を集めている。八卦亭は最大の建物で方形の土台に建てられた八角形の屋根とドーム状の天井は「天は円く、地は四角」という世界観を表現している。

...だそうです。入場料一人10元。年パスは120元らしいwww

内部はとても広くて、あちこちに陰陽マーク。キョンシー映画そのままの姿の道士様もあちこちにいらっしゃる。建物や床のレリーフが、動物や縁起の良い植物がモチーフでどことなく可愛い。

堂内では入場券にチェックをしてもらおうと自分の干支のカードをもらえたり、大小様々な大きさのろうそく（蓮の花や桃の実の形）で厄払いをしてくれるらしく、今日が誕生日の夫の厄を、一番小さい蓮の花のろうそく（30元）を買って払ってもらったりした。いつもこうなのか、正月だからなのかは不明。この堂内にも茶座が有り、竹製の椅子と石製の卓が並んでいた。

途中、カップルらしき男女がお払いをしてもらっている場に遭遇した。にぎやかな鳴り物とお

祈りに見物客の人ばかりが出来ていた。

堂内をぐるりと回ってきたが、結構寒い。夫が尿意を催したのでトイレに行くという。

私は大丈夫だから、とカバンを持って外で待っていると、しばらくして血相を変えた夫が戻ってきた。聞けば、ちゃんと「男」と書いてある方に入り、鍵がかかっていないドアを開けたのに、中におばあさんが尻を出して座っていたらしい。

「びっくりして漏らすかと思った」そりゃあ驚くわなあ。まあ、中国ではありがちな事件だから気にするな。

15時過ぎに青羊宮を出て、最後に熊猫屋で買い物をしよう、と武侯祠に向かう。夫が方角を間違えて反対方向に歩いてしまうが（地理屋の方向音痴）、途中で気づいて、バスに乗ったりしながらやっとたどり着いた。

（途中、介護用品ショップなどを見ることが出来たので良しとする。）

錦里もものすごい人出。熊猫屋も人でぎっしり。初日からずっと悩んでいた茶器セットは、日本でも倍値を出せば買えると分かり、荷物が増えることと郵送料を考えれば暴利でもない判断。ここは扇子やはがきなどかさばらないものだけを買うことにする。

錦里を出て、四川物産館的な店で兎肉珍味とインスタントバター茶等を買って、満員ラッシュのバスで火車站に向かう。

駅回りにも、揚げ物とかの小屋台がいっぱい並んでいたが、あまりお腹が空かないのでスルー。駅地下のスーパーで、車内で食べるカップ麺やお菓子を買って、預けていた荷物を受け取って「軟臥待合室」へ進む。

中国の長距離列車は大体4つのランクに席が分かれていて、上から順に軟臥・硬臥・軟座・硬座となる。最近はその間にスーパーデラックス軟臥、が追加される列車もあるらしい。

で、軟臥の乗客にはチケットを見せて入ることが許されるふかふかソファの待合室があって、それ以外の乗客は硬いベンチの待合室があてがわれている。

テレビも見られてもちろん暖房は効いているし、お茶が飲みたければお湯も汲める。受け取った荷物は二人分をひとまとめにしていたので、それを分けて再度パッキング。車内で使うものを手前に出したり、お土産をつめたり。荷造りが終わってもまだ時間があるので、外のコンビニで水やお菓子、果物を買に行くことにした。

天秤ばかりを持ったおばあさんから小さいミカンを買って、果物屋でバナナを買って、コンビニで水とポテチとポッキーを買う。

待合室に戻ると、出発時間よりずいぶん早く列車が来た。客室係の小姐がわざわざ呼びに来て案内してくれる。9号車の10・9臥（二段ベッドの上と下）に乗車。コンパートメントは二段ベッドが二つ向かい合わせになっていて、定員は四名。

次は車内係の小姐が来て、チケットをプラスチックのカードに代えてくれる。このカードを下車の直前にまたチケットと交換するので、寝台列車だけ寝過ごす心配がないという（そして無賃で乗り越す心配もない）合理的なシステム。下のベッドに座って、トランプでもしようか、お茶入れてこようかと言っていたら、向かいのベッドに若い中国人の青年がやってきた。手にはやはりコンビニで買ってきたらしい水やカップ麺の入った袋。早々と寝転がって小型パソコンでなにやら動画を見始めた。お供にはスイカの種。我々はひまわりの種を持参したけど、若者でも種食べるんだなあ。

ハイテクな暇つぶしとローテクな暇つぶしのコラボがほほえましい

二段ベッドは結構寝心地良く、その上に荷物置き場もあるのでベッドを広々使うことができる。二階によじ登るための足場もあって、私でも上り下りができる事が分かって安心。

部屋の並びにトイレと洗面所、隣の車両は食堂車、洗面所の脇には給湯器もあるし、車内は予想外に清潔。小姐がまめに掃除をしてくれているらしく、ゴミ箱があふれていることもない。まあ、これが硬座ではどうか知りませんが...

やがて発車ベルの音もなく、列車は動き出した。いよいよ36時間の列車の旅が始まる。

列車が動きはじめてしばらくすると、車内販売のワゴンが通るようになった。果物のワゴンと、飲み物やカップ麺、お菓子のワゴンがあるらしい。

やがて食堂車が開いた、今夜のメニューは～というアナウンスが入る（その程度のヒヤリングならなんとかね...料理の名前だけは聞き取れるので）。とりあえず今夜は食堂車で食べてみようか、と移動する。

こざっぱりした白いテーブルクロス、造花が飾られた席でメニューを広げ、太刀魚（帯魚）の家常風、泡菜牛肉、ご飯、で49元の夕食。

食堂車を利用する人は少なく、我々の他は、若い男性が1人だけ。後のテーブルは乗務員のくつろぎの場と化している。おかずはどちらも濃いめの味付けでご飯がすすんだ。

部屋に戻っても、することがないので早々に就寝。あ、乗車中はもちろん風呂には入れないので、大判ウェットティッシュで体を拭いてから。乾燥していて汗もかかないので、これで充

分だった。

いざ横になると結構揺れる。しかも布団も薄いので、コートもかけて寝ないと寒くて仕方ない。ついでに首にマフラーも巻いた。もちろんマスクも。

夜中に夫はトイレに起きたらしいけど、気づかず寝ていた。が、決して良眠ではなく、ちょくちょく目は醒めていた。

翌朝、うっすら明るくなる頃、車窓から覗くと外は雪景色。どおりで寒いわけだ。しかも激しい頭痛。GPSを見ると

結構な高度（1100mくらい）を走っているようで、風邪ではなく気圧の変化から来る偏頭痛のよう。

食欲も無いので薬を飲んで再び入眠。

結局その後も頭痛が止まず、バナナ食べてまた薬飲んで 午前中いっぱい寝て過ごした。

夫は写真撮ったり車内をうろうろしたりしていたらしい。

13時過ぎようやく起きて下段へ。お茶のんでクラッカーや瓜子、みかんを食べつつパンダトランプで遊ぶ。

窓の外は黄土高原。穴ぐら住居（ヤオトン）も見え隠れする。途中、列車が駅に停車するとホームには物売りがやってくる。昔は近隣の農民が作物を売りに来たりしたらしいけど、今は鉄道局公認の業者だけらしい。ちょっとつまらない（と思いつつ、買った西瓜が車内で爆発しても困るか...）。

洛陽の駅でふかしたての包子を夫が買ってきた。小ぶりの肉まんが7個で5元。餡が濃いめの味付けで美味。

他にも物売りがいるらしいけど、軟臥車両には来ないらしい。わざわざ硬座まで行って買ってきた、という。

軟臥の客は5元の包子は食べないのか...

昼間の食堂車はメニューも違うみたいだが、乗務員の煙草の煙がひどくて、食事をしようとは思えない。テーブルの一部がお土産屋になっているというので、それだけ見に行く。

お土産と言っても食料品ばかり。一応四川名物だが値段も高め。それでも売れているようだった。

食堂車の食材も途中駅から新たに運び込まれているようだった。

体調が良ければもう少し車内をうろうろしたかったけど、走行中の結構な揺れに頭がぐらぐらしている。

下段のベッドで横になると、上よりはやや揺れが少なく感じる。

しばらくうとうとして目を覚ますと向かいのベッドにいた青年は下車していた。

途中から乗り込んでくる客もなく、コンパートメントは貸し切りとなる。 iPodで音楽など聞きつつ、旅の記録をまとめたり、またまたトランプをしたり。動かないせいかお腹も空かず、お菓子と瓜子とお茶で紛れてしまう。

早いけど寝てしまおう。 明日は8時には上海に到着する予定。おやすみなさい。

上海ではどんなパンダさんと出会えるのかな...閉じるまぶたの裏に白黒のもふもふが見え隠れし始めて、私は眠りに落ちていた。

おまけの話

この旅行記は、2010年～2011年にかけて我々夫婦が経験したことに基づいて書かれていますので、価格や所要時間など現在の状況とは異なる場合もありますのでご注意ください。

なにより違っていたのは成都大熊猫繁殖研究基地でのアクティビティについて。

個人旅行者は参加できない、のではなく単にシーズンオフでできなかったらしいと言うことがわかったのです。

ですので、2011年夏にリベンジしてきましたよ！二日続けて抱っこしに行きました。もふもふでした...（うっとり）

また詳しいことは旅行記にできたらいいな、と思います。

それでは、長々とおつきあい頂きありがとうございました！

一路平安！！